

社会的地位向上めざして

日本技術士会 中国本部 山口県支部設立記念式典

【防府】(公社)日本技術士会中国本部山口県支部(住居孝紀支部長)は21日、山口市小郡黄金町の山口グランドホテルで支部設立記念式典を開催した。式典には中国地方整備局の丸山隆英局長や山



あいさつする住居支部長



式典のもよう

口大学の三浦房紀副学長らが出席した。式典でははじめに、住居支部長が「山口県では、昭和61年6月に県内在住の技術士42名が、科学技

術を持って地域社会に貢献することを目的に山口県技術士会を設立し地道な活動を続けてきた。しかし、任意団体だと活動の範囲が限られるため、昨年6月に有志66名が発議して法人化に動き出した。7月には統括本部理事会で承認され、11月に正式に支部設立となった」とこれまでの経緯を語り、続けて「今後は、正会員103名と修習技術者43名がこれまでの山口県技術士会と手を取り合い二つの団体の活動する予定。10月に山口市で開催される日本技術士会全国大会山口では、二つの組織で準備を進め成功させたいと思っている。地方での開催という特色を生かすために、新技術、防災、倫理、青年部について討論し地方創生に役立たせたい大会にする。技術士の活性化や社会的地

位の向上を目指して活動していく」と式辞を述べた。

また、中国本部の大田一夫本部長が「技術士は、文部科学省が所管する理系の国家資格としては最も難易度が高いといわれているが、弁護士や建築士と比べ社会的な知名度はいまひとつ。このため、4年前から社会貢献活動として中小企業支援、防災支援、教育支援の3本柱で、社会に対して技術士の存在意義を示す活動に力を入れている。また、技術士の本会への入会率が20%程度と低いいため、魅力度アップにつなげるためにCPD行事の開催回数を増やすことを最優先課題と考え、さまざまなお取り組みを行っている。ただ、広島県とその他の県では開催回数で開きがあるため、山口県での多様なCPD機会が提供

され、また、県支部と県技術士会が連携して地域社会への貢献を通して技術士の地位向上を果たされることを期待する」とあいさつした。

その後、来賓の丸山局長や村岡副知事代理で県商工労働部新産業振興課の小関浩幸課長、宇部工業高等専門学校の小谷知也校長代理の日高良和副校長が「県支部の設立で、抱えている課題を地域の中で解決できることに期待している。県内のみならず国内の技術力の向上またその社会の実現に貢献してほしい」となどと祝辞を述べた。

当日は式典に先立ち、第21回技術士フォーラム(修習技術者ガイダンス)や三浦副学長による「衛星リモートセンシングデータ利用の可能性」を演題とした記念講演会なども催された。